

教育研究業績書

2024年10月22日

所属：薬学科

資格：助教

氏名：林 麻利亜

研究分野	研究内容のキーワード
微生物生化学	ビタミンB1 (チアミン)、生合成、酵素
学位	最終学歴
博士 (薬学)	武庫川女子大学大学院 薬学研究科 医療薬学専攻 修士課程 修了

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1. グループディスカッションの活用	2010年9月～2016年3月	薬学科2年生を対象に、実習科目「小さな生命体と遺伝子を調べる」で、観察力や考察力を養うため、小グループによる実験結果に関する討議を実施した。
2 作成した教科書、教材		
1. 「人と環境への影響と細菌を調べる」実習テキスト	2017年9月	薬学科3年生を対象とした実習テキストを担当教員と共に作成した。
2. 「健康と環境への影響を調べる」実習テキスト	2016年9月	薬学科3年生を対象とした実習テキストを担当教員と共に作成した。
3. 「予防薬学実験」実習テキスト	2016年9月	健康生命薬科学科3年生を対象とした実習テキストを担当教員と共に作成した。
4. 「薬学生物学」講義プリント	2016年4月	講義内容を演習問題形式でプリントにして配布、復習にも活用できるように作成した。
5. 「小さな生命体と遺伝子を調べる」実習テキスト	2010年9月	薬学科2年生を対象とした実習テキストを担当教員と共に作成した。
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		
1. 薬学教育者ワークショップを受講	2018年2月17日～2018年2月18日	摂南大学で実施された「第91回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ(薬学教育者ワークショップ)in 近畿」に参加した。

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1. 危険物取扱者甲種	2007年6月	
2. 薬剤師免許	2002年6月	
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
2 学位論文				
1. 古細菌 <i>Pyrobaculum calidifontis</i> のチアミン生合成経路の酵素学的研究	単	2016年3月	武庫川女子大学	超好熱性古細菌 <i>Pyrobaculum calidifontis</i> のThiNタンパク質のThiN領域が、これまで知られていたチアミンリン酸合成酵素ThiEと全く同じ反応を触媒することを明らかにした。また、ThiNの酵素生成物複合体の立体構造を予測し、部位特異的変異導入によってArg320とHis341が活性発現に必須の残基であることを示唆した。さらに、ThiLタンパク質がチアミンリン酸キナーゼ活性を持ち、Ser196がその触媒活性に中心的な役割を持つことを示した。
3 学術論文				
1. The Biosynthesis of the Pyrimidine Moiety of Thiamin in <i>Halobacterium salinarum</i> . (査読)	共	2016年6月	J Nutr Sci Vitaminol 62(2)	好塩性古細菌のチアミンのピリミジン骨格が真正細菌と同様の経路で合成されることを示唆した。p130-133 Kijima Y, Hayashi M, Yamada K, Tazuya-Murayama K

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
付) 2.Characterization of thiamin phosphate kinase in hyperthermophilic archaean <i>Pyrobaculum calidifontis</i> (査読付)	共	2015年12月	J Nutr Sci Vitaminol 61(5)	古細菌の補酵素チアミンピロリン酸はチアミンリン酸キナーゼ(ThiLタンパク質)によって生成されることを明らかにし、ThiLの酵素学的性質を検討した。p369-374 Hayashi M, Nosaka K
3.The biosynthesis of the thiazole moiety of thiamin in the archaean <i>Halobacterium salinarum</i> (査読付)	共	2015年6月	J Nutr Sci Vitaminol 61(3)	好塩性古細菌のチアミンのチアゾール骨格が真核生物と同様の経路で合成されることを示唆した。p270-274 Hayashi M, Kijima Y, Tazuya-Murayama K, Yamada K
4.Enzymatic and structural characterization of an archaeal thiamin phosphate synthase (査読付)	共	2014年4月	Biochim Biophys Acta 1844(4)	古細菌のThiNタンパク質が真正細菌のThiEとは起源を異にするチアミンリン酸合成酵素であることを証明し、酵素学的解析とホモロジーモデリングで反応機構を考察した。p803-809 Hayashi M, Kobayashi K, Esaki H, Konno H, Akaji K, Tazuya K, Yamada K, Nakabayashi T, Nosaka K
5.Laminin E8 fragments support efficient adhesion and expansion of dissociated human pluripotent stem cells (査読付)	共	2012年6月	Nature Commun 3: 1236, doi: 10.1038/ncomms2231	細胞接着タンパク質であるラミニン511やラミニン332の活性フラグメント(LM-E8)を使うと、ヒトES/iPS細胞がフィーダーなしでも安定して長期間培養できることを見いだした。 Miyazaki T, Futaki S, Suemori H, Taniguchi Y, Yamada M, Kawasaki M, Hayashi M, Kumagai H, Nakatsuji N, Sekiguchi K, Kawase E
6.Activin A binds to perlecan through its pro-region that has heparin/heparan sulfate-binding activity. (査読付)	共	2010年11月	J Biol Chem 285 (47)	アクチピンAはpro領域を通じてヘパリン/ヘパラン硫酸結合活性を持つパルカンと結合することを明らかにした。p36645-36655 Li S, Shimono C, Norioka N, Nakano I, Okubo T, Yagi Y, Hayashi M, Sato Y, Fujisaki H, Hattori S, Sugiura N, Kimata K, Sekiguchi K
7.The C-terminal region of laminin β chains modulates the integrin binding affinities of laminins (査読付)	共	2009年3月	J Biol Chem 284 (12)	ラミニン β 鎖のC末端領域はラミニンのインテグリン結合親和性を調整することを示した。p7820-7831 Taniguchi Y, Ido H, Sanzen N, Hayashi M, Sato-Nishiuchi R, Futaki S, Sekiguchi K
8.Anti-laminin gamma-1 pemphigoid (査読付)	共	2009年2月	Proc Natl Acad Sci USA 106(8)	ラミニン γ 1鎖を標的とする抗ヘミデスモソーム抗体を発見した。p2800-2805 Dainichi T, Kurono S, Ohyama B, Ishii N, Sanzen N, Hayashi M, Shimono C, Taniguchi Y, Koga H, Karashima T, Yasumoto S, Zillikens D, Sekiguchi K, Hashimoto T
9.Laminin isoforms containing the gamma3 chain are unable to bind to integrins due to the absence of the glutamic acid residue conserved in the C-terminal regions of the gamma1 and gamma2	共	2008年10月	J Biol Chem 283 (42)	インテグリンとの結合に必須のラミニン γ 鎖のC末領域のグルタミン酸残基を欠いた γ 3鎖は、ラミニンのインテグリンへの結合を失うことを示した。p28149-28157 Ido H, Ito S, Taniguchi Y, Hayashi M, Sato-Nishiuchi R, Sanzen N, Hayashi Y, Futaki S, Sekiguchi K

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
chains (査読付) 10. Recombinant human laminin isoforms can support the undifferentiated growth of human embryonic stem cell (査読付)	共	2008年10月	Biochem Biophys Res Commun 375 (1)	ヒト由来組換えラミニンアイソフォームはヒト胚性幹細胞の未分化成長をサポートすることを明らかにした。p27-32 T, Futaki S, Hasegawa K, Kawasaki M, Sanzen N, <u>Hayashi M</u> , Kawase E, Sekiguchi K, Nakatsuji N, Suemori H
11. Ligand-binding specificities of laminin-binding integrins: a comprehensive survey of laminin-integrin interactions using recombinant alpha3beta1, alpha6beta1, alpha7beta1 and alpha6beta4 integrins. (査読付)	共	2006年04月	Matrix Biology	様々なラミニンとの結合試験によって、各インテグリンのラミニン選択性を解明した。p189-197 Nishiuchi R, Takagi J, <u>Hayashi M</u> , Ido H, Yagi Y, Sanzen N, Tsuji T, Yamada M, Sekiguchi K
その他				
1. 学会ゲストスピーカー				
2. 学会発表				
1. ユーグレナにおけるビタミンB6の窒素の起源	共	2018年6月	日本ビタミン学会第70回大会, 高槻	松澤武, 米澤佳則, <u>林麻利亜</u> , 野坂和人, 山田和子, 田鶴谷(村山) 恵子
2. カンキツ類由来成分ノルデンタチンの抗菌メカニズム	共	2018年3月	日本薬学会第138年会, 金沢	柿野 沙也香, 打越 貴絵, <u>林 麻利亜</u> , 十一 元晴, 山田 和子, 廣村 信, 田鶴谷(村山)恵子
3. ユーグレナのチアミン合成酵素群cDNAの単離と発現	共	2018年3月	日本薬学会第138年会, 金沢	<u>林麻利亜</u> , 安江奏子, 遠藤祐里奈, 内山良介, 石川孝博, 野坂和人
4. Fasシグナルを介した新規炎症応答メカニズムと細菌感染防御における役割	共	2018年3月	日本薬学会第138年会, 金沢	内山良介, 筒井ひろ子, <u>林麻利亜</u> , 遠藤祐里奈, 田辺凌子, 田村友紀, 田所真貴子, 野坂和人
5. ピロリ菌のチアミン輸送タンパク質PnuTの生化学的性質と基質認識部位	共	2018年3月	日本薬学会第138年会, 金沢	只野響, 内山良介, 小林数也, <u>林麻利亜</u> , 遠藤祐里奈, 赤路健一, 野坂和人
6. ピロリ菌のチアミン要求性とチアミンピロリン酸オペロンの同定	共	2017年3月	日本薬学会第137年会, 仙台	野坂和人, <u>林麻利亜</u> , 遠藤祐里奈, 内山良介, 三室仁美
7. Biosynthesis of thiamin phosphate in hyperthermophilic archaeon Pyrobaculum calidifontis	共	2016年9月	The Fifth International Conference on Cofactors and Active Enzyme Molecule 2016, Unazuiki	<u>Hayashi M</u> , Kobayashi K, Shimizu Y, Endou Y, Konno H, Akaji K, Nosaka K
8. Precursors of the thiamin pyrimidine moiety in an archaeon	共	2016年9月	The Fifth International Conference on Cofactors and	Tazuya-Murayama K, Matuo Y, Kijima Y, <u>Hayashi M</u> , Yamada K

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
9. ハロバクテリウムにおけるチアミン・ピリミジン部への15N-及び15C-標識グリシンの取り込み	共	2016年3月	Active Enzyme Molecule 2016, Unazuiki 日本薬学会第136年会, 横浜	馬田采香, 園木麻友, 狭間淳輔, 古賀小百合, 木島由希絵, <u>林麻利亜</u> , 山田和子, 田鶴谷(村山)恵子
10. 古細菌 <i>Pyrobaculum calidifontis</i> のチアミンリン酸キナーゼの酵素学的性質と反応機構	共	2016年3月	日本薬学会第136年会, 横浜	<u>林麻利亜</u> , 野坂和人
11. 酵母におけるチアミン・チアゾール部の嫌気条件下での生合成	共	2016年3月	日本薬学会第136年会, 横浜	<u>林麻利亜</u> , 清水泰博, 山田和子, 田鶴谷恵子, 野坂和人
12. ユーグレナにおけるチアミン・チアゾール部生合成前駆体の検討	共	2015年11月	第32回日本薬学会九州支部大会, 宮崎	田鶴谷(村山)恵子, <u>林麻利亜</u> , 山田和子, 牛ノ濱昂輝, 越知石祐, 松永裕子, 西川佳容, 松尾浩右
13. ユーグレナにおけるチアミン・チアゾール部へのグリシンの取り込み	共	2015年6月	日本ビタミン学会第67会大会, 奈良	田鶴谷(村山)恵子, 牛ノ濱昂輝, 越知石祐, <u>林麻利亜</u> , 山田和子
14. 古細菌 <i>Pyrobaculum calidifontis</i> のチアミンリン酸キナーゼ ThiL の酵素学的性質	共	2015年6月	日本ビタミン学会第67会大会, 奈良	<u>林麻利亜</u> , 野坂和人
15. ユーグレナにおけるチアミン・チアゾール部の生合成経路	共	2015年3月	日本薬学会第135年会, 神戸	牛ノ濱昂輝, 越知石祐, <u>林麻利亜</u> , 山田和子, 田鶴谷恵子
16. 古細菌のチアミンピロリン酸生成経路とチアミンリン酸キナーゼの酵素学的性質	共	2015年2月	第439回ビタミンB研究協議会, 東京	<u>林麻利亜</u> , 野坂和人
17. 高度好塩菌 <i>Halobacterium salinarum</i> におけるチアミン・ピリミジン部の生合成経路	共	2014年12月	第31回日本薬学会九州支部大会, 福岡	古賀小百合, 狭間淳輔, <u>林麻利亜</u> , 木島由希絵, 山田和子, 野坂和人, 田鶴谷(村山)恵子
18. チアミンリン酸合成酵素 thiN の酵素学的性質と立体構造モデリング	共	2014年10月	第64回日本薬学会近畿支部大会, 京都	<u>林麻利亜</u> , 小林数也, 今野博行, 赤路健一, 山田和子, 野坂和人
19. The biosynthesis of thiazole moiety of thiamin under anaerobic condition in <i>Saccharomyces cerevisiae</i>	共	2014年8月	The 4th International Conference on Cofactors, Parma	Tazuya-Murayama K, <u>Hayashi M</u> , Yamada K
20. アーキアのチアミン生合成経路とエネルギー代謝経路の進化	共	2014年3月	日本薬学会第134年会, 熊本	<u>林麻利亜</u> , 満生慎太郎, 狭間淳輔, 熊谷美里, 福田知美, 木島由希絵, 田鶴谷(村山)恵子, 山田和子, 中林利克
21. チアミンリン酸合成酵素 thiN の酵素学的性質と立体構造モデ	共	2013年11月	第434回ビタミンB研究協議会, 名古屋	<u>林麻利亜</u> , 小林数也, 赤路健一, 田鶴谷(村山)恵子, 山田和子, 野坂和人

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
リング 22. ユーグレナにおける ビタミンB1, B6の生 合成経路	共	2013年9月	日本農芸化学会関 西・中四国・西日 本支部および日本 ビタミン学会近 畿・中国四国・九 州沖縄地区2013年 度合同大会, 広島	林麻利亜, 田鶴谷(村山)恵子, 野坂和人, 山田和子
23. 超好熱性古細菌のチ アミンリン酸合成酵 素thiNについて	共	2013年5月	日本ビタミン学会 第65回大会, 東京	林麻利亜, 野坂和人, 小林数也, 赤路健一, 田鶴谷恵子, 山田和子
24. 超好熱性古細菌にお けるチアミン生合成 経路の研究	共	2013年3月	日本薬学会第133年 会, 横浜	林麻利亜, 野坂和人, 田鶴谷恵子, 山田和子
25. 超好熱性古細菌のチ アミンリン酸合成酵 素thiNについて	共	2013年2月	第431回ビタミンB 研究協議会, 大阪	野坂和人, 林麻利亜, 田鶴谷恵子, 山田和子
26. 細菌に対して静菌作 用を示す柑橘果皮成 分由来の化合物の検 索とその作用の研究	共	2012年10月	第62回日本薬学会 近畿支部総会・大 会, 兵庫	岸田彩, 黒田ゆかり, 十一元晴, 林麻利亜, 山田和子
27. 嫌気性条件下の酵母 におけるチアミンの 生合成経路ーピリ ミジン部とチアゾー ル部における窒素と 炭素の起源ー	共	2012年10月	第62回日本薬学会 近畿支部総会・大 会, 兵庫	有延早弥香, 福田知美, 林麻利亜, 山田和子
28. 好塩菌におけるチア ミン生合成経路の研 究ーピリミジン部 とチアゾール部にお ける窒素と炭素の起 源ー	共	2012年10月	第62回日本薬学会 近畿支部総会・大 会, 兵庫	福田知美, 熊谷美里, 林麻利亜, 山田和子
29. ユーグレナにおける チアミン生合成経路 の研究	共	2012年3月	日本薬学会第132年 会, 札幌	林麻利亜, 中村幸恵, 村上真愛, 田鶴谷恵子, 野坂和人, 山田和子
30. 肝芽細胞の培養に適 した細胞外基質の探 索	共	2010年3月	第9回日本再生医療 学会	片岡高志, 下野知性, 林麻利亜, 八木芳子, 浄住大慈, 二木杉子, 関口清俊
31. Collagen I/IV composite gels as the platform for construction of basement membrane- like 3D matrix and their application to stem cell culture	共	2009年10月	第 82 回日本生化学 会大会	佐藤(西内)涼子, 二木杉子, 藤崎 ひとみ, 佐々木純, 川崎美和, 林麻利亜, 下野知性, 小山洋一, 服部 俊治, 関口清俊
32. The carboxyl- terminal region of laminin beta chains modulates the integrin- binding affinities of laminins	共	2009年6月	Yokosuka Science Festa 2009, 8th Pan-Pacific Connective Tissue Societies Symposium	Taniguchi Y, Ido H, Sanzen N, Hayashi M, Nishiuchi R, Futaki S, Sekiguchi K
33. 組み替えヒトラミニ ンアイソフォームを 用いたヒトES細胞の 未分化維持培養	共	2009年3月	第8回日本再生医療 学会(東京)	宮崎隆道, 二木杉子, 長谷川光一, 川崎美和, 三千典子, 林麻利亜, 川瀬栄八郎, 関口清俊, 中辻憲夫, 末盛博文

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
34. The carboxyl-terminal region of laminin beta chains modulates the integrin binding activity of laminins	共	2008年6月	Gordon Research Conference on Basement Membranes	Taniguchi Y, Ido H, Sanzen N, <u>Hayashi M</u> , Nakano I, Nishiuchi R, Futaki S, Sekiguchi K
35. The C-terminal region of laminin beta1/2 chains regulates the binding-affinity to integrin alpha3beta1	共	2007年12月	第80回日本生化学会大会・第30回日本分子生物学会年会合同大会 (BMB2007)	谿口征雅, 井戸寛之, <u>林麻利亜</u> , 三千典子, 二木杉子, 関口清俊
36. Characterization of the γ 3 chain-containing laminins	共	2007年12月	第80回日本生化学会大会・第30回日本分子生物学会年会合同大会 (BMB2007)	井戸寛之, 伊藤俊輔, 谿口征雅, <u>林麻利亜</u> , 三千典子, 真鍋理一郎, 筒井仰, 中野伊津子, 関口清俊
37. Characterization of the gamma3 chain-containing laminins	共	2007年9月	XIIIth International Symposium on Basement Membranes	Ido H, Ito S, Taniguchi Y, <u>Hayashi M</u> , Sanzen N, Manabe R, Tsutsui K, Nakano I, and Sekiguchi K
3. 総説				
1. 古細菌のチアミン合成経路の生化学的研究 (査読付)	共	2017年1月	ビタミン 91(1)	p38-47 <u>林麻利亜</u> , 田鶴谷(村山)恵子, 野坂和人
2. 酵母のチアミン合成経路に關与するもう1つの自殺酵素 Thi5 (査読付)	共	2014年3月	ビタミン 88(3)	p161-164 田鶴谷(村山)恵子, <u>林麻利亜</u> , 山田和子
3. 自殺酵素とチアミン・チアゾール部の生合成 (査読付)	共	2012年8月	ビタミン 86(8)	p453-455 田鶴谷(村山)恵子, <u>林麻利亜</u> , 山田和子
4. 芸術 (建築模型等含む)・スポーツ分野の業績				
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
6. 研究費の取得状況				
学会及び社会における活動等				
年月日	事項			